

秋田県能代市立
東雲中学校

秋田県能代市立
向能代小学校

秋田県能代市立
竹生小学校

秋田県能代市立
朴瀬小学校

魅力ある学校づくり 調査研究事業



小・中学校の9年間を見通した楽しい学校づくり



東雲中学校区の4校が連携した 魅力ある学校づくり調査研究事業

現在、小学校及び中学校において、学習や人間関係に不安を抱えるなどの理由から、不登校になる児童生徒は、全国でおおよそ12万人を数え、平成25年度からは増加傾向にあります。

そこで、文部科学省国立教育政策研究所は、不登校の未然防止を推進するため、平成22年度から、都道府県教育委員会と連携した「魅力ある学校づくり調査研究事業」を実施してきました。第Ⅲ期の取組として、平成26年度からの2年間は、秋田県教育委員会及び能代市教育委員会が委嘱を受け、東雲中学校を拠点校に、向能代小学校、竹生小学校、朴瀬小学校の4校が連携して事業を進めてきました。

2年目の取組

本事業では、児童生徒が新たに不登校にならないように、いじめを生まないように、児童生徒の実態を捉え、「心の居場所」となる学校、「絆づくりの場」となる学校、すなわち児童生徒にとって「魅力ある学校」づくりを目指して、4校が連携して取り組んできました。

2年目となった27年度は、小・小連携及び小・中連携を更に深め、4校の共通実践を徹底し、小学校から中学校への接続が、一層円滑になるような取組を進めました。また、児童生徒がより主体的に学校生活を送ることができるように、学校行事・特別活動に児童生徒によるPDCAサイクルを取り入れました。

取組の実際

1 授業改善の継続 ～成就感の実感できる授業づくり～

●導入

- ・興味・関心・意欲を高め、見通しをもたせる課題提示
- ・授業のゴールの提示

●授業の中で

- ・互いに認め合う場面の設定
- ・認めて、褒める教師の言葉かけ

●終末

- ・定着を図る時間の確保
- ・児童生徒の振り返りの充実



興味・関心を高める導入



ゴールを目指して教え合い



主体的に「話す」



生徒によるまとめ

数学科

振り返りの達人

どんなことを聞こうかな？

- 分かったことやできるようになったこと
- どんな見通しをもって取り組んだか
- 自分や友だちのがんばり
- その他の感想

これも書けたら振り返りの達人

- 前の学習とのつながり
 - ・似ているところ
 - ・違うところ
- 生活の中で役に立てられそうな場面
- 見通しの方法がどうであったか (方法の振り返り)
- 見通しを立てたことがうまくいったか (結果の振り返り)

観点に沿った振り返り

しのめちゅうがつく
東雲中学区でめざす

しゅたいていき まな
主体的に学ぶ
すがた
子どもの姿

書く

じぶん かんが かんが
自分の考えを書くことができる。

聞く

とも だち せんせい はなし き
友だちや先生の話聞くことができる。

話す

じぶん かんが とも だち せんせい
自分の考えを、友だちや先生につたえることができる。

主体的に学ぶ姿 4校の全教室に掲示

東雲ブロック「学習の約束」～身に付けたい学習習慣～

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校
① 始業時の態度	椅子に座って先生を待っている。	座って学習の準備を確認する。		その日の学習課題に沿って自主学習に取りかかる。			予習や復習に取りかかる。
② 用具の位置	本は、机の左。ノートは、右。筆入れは、前方。						
③ 始めのあいさつ 終わりのあいさつ	「気をつけ。これから～の勉強を始めます。 (はい) 礼。」 「気をつけ。これで～の勉強を終わります。 (はい) 礼。」			「気をつけ。これから～の学習を始めます。 (はい。) 礼 (お願いします。)」 「気をつけ。これで～の学習を終わります。 (はい。) 礼。(ありがとうございました。)」			
④ 座り方	両足を床に付け、背筋を伸ばす。机と腹の間は、握りこぶし1つ分空ける。						
⑤ 挙手の仕方	他の人が話し終わってから挙手する。挙手のときには、右手をピンと伸ばして挙げる。 (「はい」は、1度だけにする。)						

小・中連携の実際



準備期間 話し合いを通して、
 将来に対する自分の考えを深めよう
テーマ4 生きる～私たちが大切にしていきたいこと～
今日のゴール 話し合いをもとに、自分の将来や
 今自分がすべきことについて考えを
 まとめる。

総合的な学習の時間合同発表会

- ・各校の職場体験の報告
- ・テーマを設け、小・中学生混合グループでの話し合い（異学年交流の効果）



小・小連携の実際

3校合同職場体験



向能代小学校・竹生小学校・朴瀬小学校の児童が合同のグループで職場体験

- ・3校の児童が交流する機会
- ・特別活動における連携の強化
- ・小規模校は職場選びの幅が広がる

竹生小学校・朴瀬小学校 交流授業



小規模校の竹生小学校と朴瀬小学校の合同授業

- ・合同のレクリエーション
- ・合同の音楽授業
- ・合同の修学旅行
- ・合同の水泳授業 などが行われた

成果

- 9年間を見通した指導を意識することができるようになった。また、中学校への接続が今まで以上にスムーズに行うことができるようになった。
- 3校の児童が交流を繰り返すことで、一緒に東雲中学校で生活するという気持ちが生まれ、仲間意識が育ってきている。
- 中学校入学後の人間関係形成の助けになっている。

東雲中学校区の「課題」と「目標」

課題

自立心の未熟さ

- 他への依存傾向が残っている
- 「授業に主体的に取り組んでいる」と感じている児童生徒が少ない
- 「授業がよくわかる」と感じている児童生徒が少ない

自己有用感、自尊感情の未発達

- 集団の中で自分の居場所を見いだせない
- 人間関係づくりに不安を感じている

目標

小・中連携及び小・小連携を通じた授業改善

- 学習課題を達成した成就感を味わうことができる授業づくり

児童会・生徒会活動などの交流活動を通して児童生徒相互が触れ合う活動の充実

- 目標を達成した成就感を味わうことのできる振り返り

- 自己有用感、自尊感情の醸成と、充実した学校生活の実現
- 自信をもち積極的に自己を高めようとする児童生徒の育成

2年目の取組

分かる授業、児童会・生徒会活動、小・中連携及び小・小連携を通じ、協働して成し遂げる喜びや楽しさ、責任を果たす満足感を実感させる。

- 1 授業改善の継続 ～成就感を実感できる授業づくり～
- 2 行事や特別活動などに主体的に取り組ませる工夫 ～児童生徒によるPDCAサイクル～
- 3 児童生徒と共に考える魅力ある学校づくり ～児童生徒が主体的に考える機会の設定～

「魅力ある学校」を考える集会



みりよくある学校をつくらう



みりよくある学校って何？



勉強が分かって楽しいと思える学校

友達と協力して、きずなをつつていくことのできる、いじめのない学校



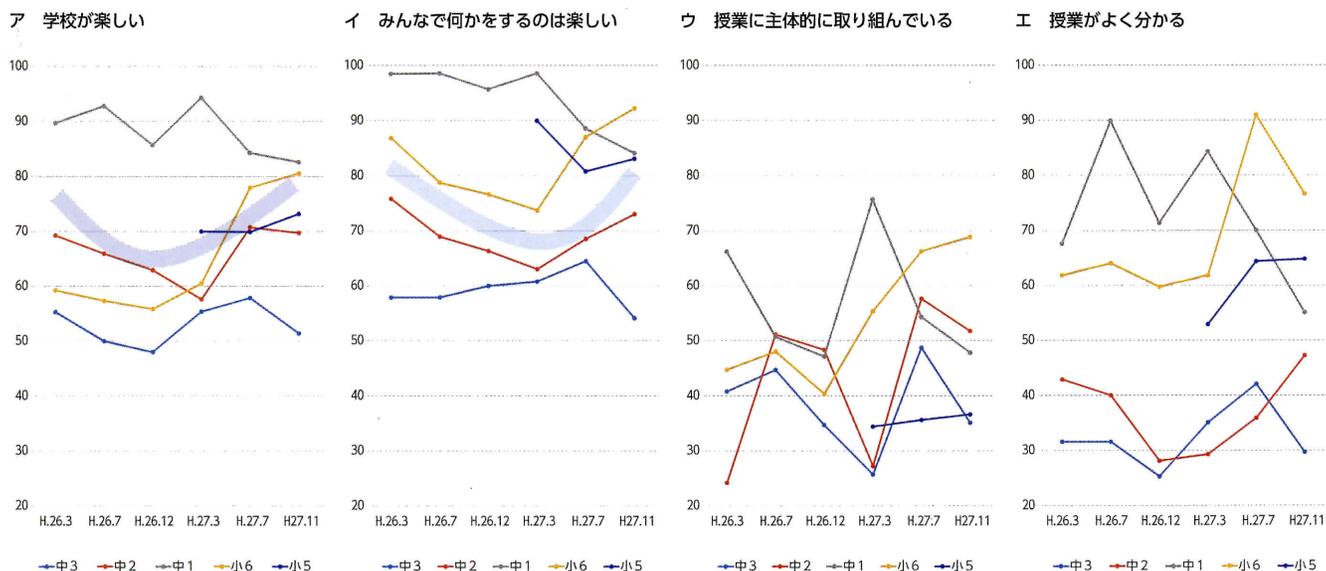
生徒会による「主体的に学ぶ姿」の提示

4 共通実践徹底のために

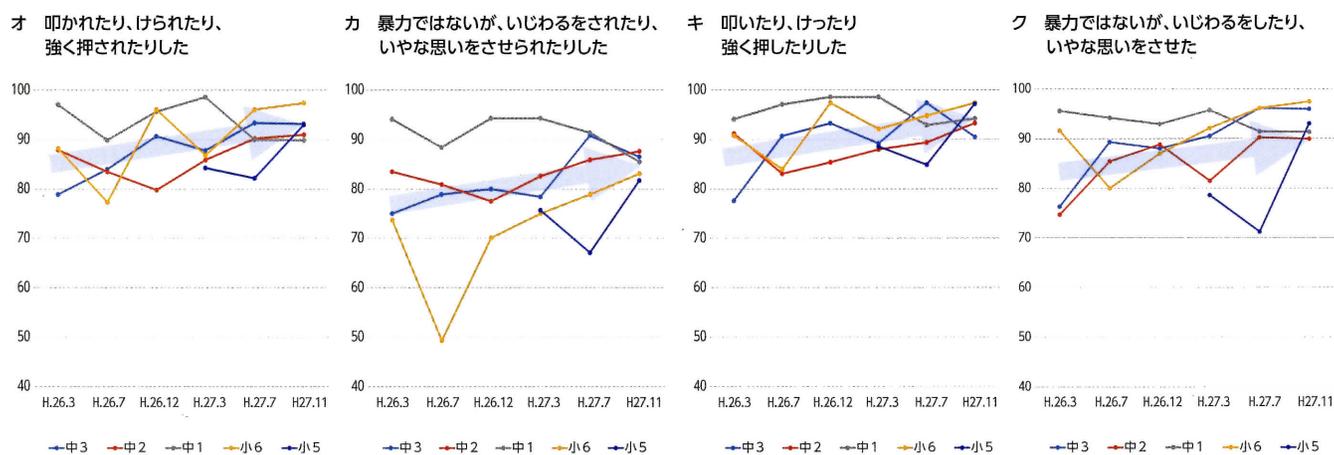
- 相互授業参観
- 小・小授業交流
- 学区合同授業研究会
- 「学習の約束」の活用
- 小・中合同授業研究会
- 東雲ブロック会(学区内合同研修会)
- (リーフレット1年目の取組参照)

2年間の生活意識調査の変容

○「あてはまる」と回答した児童生徒の割合の推移



○「全くなかった」と回答した児童生徒の割合の推移



研究の 成果と課題

- 嫌がらせやいじめを行う児童生徒の減少
 - 授業に主体的に取り組んでいる児童生徒の増加
 - 授業がよく分かる児童生徒の増加
 - 新規の不登校発生数の減少 (H24: 2名 H25: 3名 H26: 1名 H27: 1名)
 - 中学校入学後も学校生活に対する意欲を継続させ、将来の希望や小学校と変わらない安心感をもたせる取組を更に進めることが必要である。
 - 成果の出ている学級や学年の実践を広め、継承することが必要である。
 - 学習指導、特別活動における「東雲スタイル」の確立が必要である。
- 自己有用感・自尊感情が育ってきている。